

聖マリアンナ医大新聞

聖マリアンナ医科大学・新聞編集委員会 〒216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1 ☎044-977-8111(代) 総務課 <http://www.marianna-u.ac.jp>

主な内容

令和4年度 医学部 卒業証書・学位記授与式 / 看護専門学校 卒業証書授与式 / 他	(第1面)
受賞者からひとこと	(第2・3面)
大学院医学研究科 学位記授与式 / 他	(第4面)
定年のごあいさつ / 定年退職者一覧 / 他	(第5面)
令和5年度 医学部 入学式 / 看護専門学校 入学式 / 他	(第6面)
カリキュラム紹介 / スチューデントドクター宣誓式 / 他	(第7面)
教室・施設紹介 / 令和4年度 国家試験結果報告	(第8面)
卒業生を訪ねて -2 / 在学生紹介 -2	(第9面)
科学研究費補助金・交付決定者一覧 / 他	(第10-11面)
附属病院・施設だより	(第12面)

令和4年度第47回 医学部医学科 卒業証書・学位記授与式

はっけいなおみがくべし

『白珪尚可磨』の心を忘れずに、倫理観ある診療を

第47回医学部医学科卒業証書・学位記授与式は3月3日(金)午後1時から医学部本館6階大講堂で執り行われた。過去3年間は規模を縮小しての開催となっていたが、今年度は卒業生1名につき、保護者2名までの出席を可能とし、久方ぶりの賑やかな卒業式となった。



明石勝也 理事長

今年度の卒業生は117名。一人ひとりに北川博昭学長より卒業証書・学位記が手渡された。続いて「明石賞」、「医学会賞」、「聖医会賞」、「保護者会賞」が表彰された。(2面に受賞者の声)

学事報告では加藤智啓医学部長より、「諸君はコロナ禍を乗り越え、総時間数7,285時間を履修し、所定の課程を修了いたしました。これにより『生命の尊厳』について深い認識を持ち、人類社会に奉仕し得る医師となるために、正しく判断・行動し、そ

れらを生涯にわたって実践し得る基礎を確立するという卒業時の目標を達成しました」と報告された。

北川学長は式辞で「私たちは聖マリアンナ医科大学の教育でキリスト教の人類愛が自然に身につき、それがCOVID-19に対する取り組みに実践として示すことができました。医師は生涯、学修が必要であり、倫理観を持って診療に心がけなければなりません。『白珪尚可磨』という言葉にもあるように磨きようがないものをさらに磨く、その努力が大切です。その心を忘れず、今日の仲間たちを大切に皆さんで母校を育てていってください」と卒業生に言葉を贈った。

明石理事長の祝辞では、「地域医療構想の進展により、今後は病院医療提供の効率化が推進され、病床数の削減と機能区分の徹底は諸君の修練と就労の場の減少に



加藤智啓 医学部長



北川博昭学長より卒業証書を授与される豊福伸幸さん

つながるでしょう。諸君にとって大きな課題は、新しい制度に伴う環境の変化を十分に理解し、適切な対応を図ることです。これまでに身に付けた本学の建学の理念に沿った行動が、必ず多くの人々の信頼の糧となるのは間違いありません。迷いが生じたときはいつでも母校を頼ってください。本学は永遠に諸君の信頼できる支援者であり続けます」と卒業生に多くの期待をこめた。



北川博昭 学長

聖医会の岸忠宏会長は、「皆さんが後期研修を修了する頃にはリニューアル工事も終わり、大学病院はグラウンドオープンを迎えている予定です。

本学以外で研修をされる皆さんもぜひ本学に戻って新しい病院でその力を発揮してほしいと思っています。本学の次の50年を支えていくのは皆さんです。しっかりとした自覚を持ち、人に愛され信頼される医師となってください」と祝辞を贈った。



岸忠宏 聖医会会長

続いて卒業生代表による宣誓、送辞・答辞(2面に詳細)記念品(ステンドグラス)の寄贈、小田武彦司祭(宗教学特任教授)による祈願が行われた。この日、多くの祝福と激励を受け、卒業生たちは感慨深く医療人への道を踏み出した。

令和4年度第44回 看護専門学校 卒業証書授与式

感謝の意を忘れず、自ら定めた目標に精進

第43回看護専門学校卒業証書授与式は、3月2日(木)午後1時より医学部本館6階大講堂で挙行政され、85名の卒業生が鈴木昌子校長から卒業証



鈴木校長から卒業証書を授与される野瀬成美さん

書を手渡された。また「理事長賞」「同窓会賞」「皆勤賞」が表彰された。(3面に受賞者の声)

式辞で鈴木校長は「3年間の課程をやり遂げた皆さんは人との縁の大切さを実感し、縁をつないでいくことが皆さんの大きな力となり、先を照らす希望の光を与えてくれるということを知ったと思います。「キリスト教の人類愛と生命の尊厳を基本とし国際社会に貢献しうる看護実践者を育成する」という教育理念を十分理解し卒業を迎えた皆さん、これから

も自分と関わる全ての人々への感謝の意を忘れず、他者への理解を深め、自らを信じ、自ら定めた目標に向かい精進してください」と卒業生のさらなる成長を願った。



鈴木昌子 校長

明石勝也理事長は「コロナ禍の困難から世界中の人々が逃れようとしているにも関わらず、ウクライナでは激しい戦いが続いており、トルコ、シリアは大震災に見舞われ、世界は救いを求める声で溢れています。目の前の患者さん通して救いを求める人々に共感して欲しいと思います。皆さんが本学で学び身に付けたのは、

知識や実技だけではなく、マリアンナスピリッツであることも忘れてください」とお祝いの言葉を贈った。

また北川博昭学長は、「皆さんが過ごされた3年間はコロナ禍で世界中が大きな変革を遂げなければならず、講義の形式や会議の形式が大きく変わり、ワクチン開発、治療薬の開発など医学も大変な進化と変貌を遂げました。今年になりやっとコロナ禍という名の長いトンネルの出口にわずかな光が見えてきたような感じがいたします。ともに学んだ友達との思いを胸に4月からそれぞれの新たな職場で笑顔を忘れないで患者さんのために存分にご活躍ください」と激励した。

このあと卒業生代表が挨拶をし(3面に詳細)、小田武彦司祭が祝福の祈りをささげた。卒業生たちの輝かしい前途を願う心のもった卒業証書授与式となった。

春夏秋冬

新しい春を迎えて

「全ての夢は実現できる。追いかける勇気があるなら。」ウォルト・ディズニー

私の学生時代は春休み～新学期、後期試験が無事終わると長期の休暇が得られ、アルバ

イト、部活動、旅行など、十分にリフレッシュする時間が得られました。社会人になると長期休暇は夏季、正月の1週間程度であり、ゆっくりに新しいことを考える余裕がなくなります。そこでいよいよやってくる働き方改革により、今よりまとまった時間を得ることが可能になると、ワーク・ライフバランスが高まり、心

身ともに健康になる充実した生き方ができるのではと期待されています。日本人は働いている割には労働生産性が低いといわれ、リフレッシュできていないことも関係しているかもしれません。例えば北欧のノルウェーは、人口が500万人程度と圧倒的に少ないながらも、労働生産性上位国の常連に位置し、その

要因として、フレキシブルな労働環境が一因とされています。同じことを日本の医療現場にいきなりあてはめるのは困難なことは重々承知ですが、医師業務では当直、宿直の仕組みなどの既成概念を取り払う必要があるかもしれません。

2023年1月、新病棟がオープン、職場の環境も大きく変わり、心

機一転となる環境になりました。コロナ禍も完全ではないものの終息への兆し、5類感染症へと引き下がります。コロナ禍の影響でネット、WEB会議には慣れ、その成果を継承しつつ、久しぶりの対面授業がいよいよ始まります。数年にわたるコロナ禍で、暖かい春なのに冷え込んだ感はありませんが、皆様、今年は例

年より前向きな気持ちになっていませんか。この聖マリアンナ医科大学は、皆様のキャリア形成を実践していくための土壌の整った環境であり、職員、学生の皆様がより豊かな人生が送れることを信じています。

脳神経内科学 教授 白石 真

医学部



第47回医学部卒業式集合写真

受賞者からひとこと

明石賞

とよふく のぶゆき
豊福 伸幸



学生生活で特に意識をしていたことは、学業とプライベートのメリハリをつけることです。講義中に要点を理解し、地道に勉強に取り組んだことが明石賞の受賞に繋がったと思っています。臨床実習では希少な癌の患者さんを診察する機会があり、ご自身の葛藤や死生観、覚悟など様々なお話をさせていただいたことが印象に残っています。先生方にも熱心に指導をしてもらい、サポート体制も充実していたことが支えになりました。今後は人間味があり、幅広い年代の方々に頼りにしてもらえよう医師になれるよう、努力していきたいと思っています。

明石賞

ふくもと こうめい
福本 孔明



栄誉ある賞を受賞でき大変うれしく思います。オタク気質な私にとって医学の勉強は非常に面白く、気が付いたら医学の世界に没頭していました。学生生活では、自分が聖書にあるように「地の塩、世の光」になるという信念をもって、人の役に立つことを心掛けました。学業では振り返りによる課題の抽出を行い、解決する行動パターンを繰り返してきました。実習では診療科の垣根が無く、一人の患者さんを各科連携で診療する全人的医療を学べたことも大切な経験でした。今後は、ひとつの分野においてのスペシャリストになり信頼される医師になれるよう努力していきます。

明石賞

ほしこし のぞみ
堀越 望実



明石賞の受賞は、辛いことも多かったですが、努力がひとつの形になったことのように思えとても嬉しいです。6年間で一番印象に残っていることは、MCCで病棟のコンサートを行った時のことです。合唱を聞いてくださった患者さんの中には泣いている方もいて、とてもやりがいのある活動でした。友人も先生方もフレンドリーで優しい人が多く、学校生活ではたくさん支えていただきました。将来は父のように地域に貢献できる医師を目指したいです。在校生の皆さんも、勉強と遊びと休息とを全て大切にして、これからも頑張ってください。

医学会賞

こうとうだ なおゆき
後藤田 直孝



このような賞を受賞でき、家族にそして6年間関わっていただいた全ての方々に感謝の言葉を伝えたいです。できるだけ早く医師になることを目指し、努力ができたのは家族や周囲の方々の支えがあったからこそです。1年生の春休みに自分が患者として手術を経験しました。その後、授業で臨床実習を経験する中で、患者さんから見える手術室、病室、外来といった景色は医療者側から見るそれとは異なるような気がしました。その気づきを医師になって実際の現場で生かし、患者さんに信頼され、必要とされる医師になりたいです。

聖医会賞

きたむら しょうの
北村 奨之



学業だけでなく部活動やオープンキャンパス、国試対策委員会での活動も評価されたことを大変光栄に思います。部活動では、MESS部のぬいぐるみ病棟の活動で、幼稚園の園児たちとぬいぐるみを患者さんに見立てた診察ごっこをしたことが大変印象に残っています。大学ではいろいろな経験を積むために自分のできることには積極的に参加してきました。それぞれの活動で出会った方々の支えがあり、続けることができました。勉強も大切ですが、友人と過ごす日々もかけがえのないものです。悩んでいる仲間がいたら手を差し伸べる優しさを大事にしてください。

保護者会賞

いのうえ かな
井上 かな



私は「応援してくださる方への感謝と人前になる責任を肝に銘じ、大学や学部を超えた活動すること」を一番大切にしていました。学生生活で特に印象に残っていることは、4年次に学外オーケストラで代表を務めたことです。コロナ禍で閉塞感が漂う社会を音楽で変えたいとリモート演奏YouTube公開やクラウドファンディングを行い、その活動は文化放送「大竹まことゴールデンラジオ!」でも取り上げられました。自分でチャンスをつかみに行くとそれに報えてもらえ、個人の努力をこの様に評価してくださることを大変ありがたく感じています。

一選考基準一

- ◆明石賞
6年間を通して成績が優秀であった者
- ◆医学会賞
卒業時の成績が優秀であった者
- ◆聖医会賞
成績が優秀で学生自治会等において活動が著しく将来本学への貢献が期待できる者
- ◆保護者会賞
学生生活の活性化及び社会活動に貢献した者

宣 誓



卒業生代表
ひろせ たかひさ
廣瀬 敦久

私たちは聖マリアンナ医科大学での学生生活の中で、嬉しいことばかりではなく辛いことも多く経験して人間性を養い、育んできました。コロナ禍で講義や試験も変則的な対応を余儀なくされました。そのような状況下で私たちを励まし、支えてくれたのは家族や友人、同じ志を持つ学友といった身近な人たちです。これから医学を実践する私たちは、日々研鑽し、さらなる医学の発展に寄与すること、そして聖マリアンナ医科大学で学んだ人類愛の下に、生命に誠心誠意尽くすことを、ここに宣誓いたします。

送 辞



在校生代表5年
さくわき もも
佐久間 萌音

卒業生の皆様のご卒業を心よりお慶び申し上げます。私たちはいつも先輩方の背中を追いかけ、支えられてきました。私たちを導き、優しく、時に厳しく接していただいた先輩方との日々はかけがえのない思い出です。4月から医師として臨床の場に立つにあたり、新しい環境での挑戦を心細く感じることもあるかもしれませんが。そんな時は苦楽を共にした仲間や私たち後輩を思い出してください。生命の尊厳を基調とし、愛にあふれた医療人として無限の可能性を秘めた未来にはばたく先輩方を在学生一同、心より応援しております。

答 辞



卒業生代表
いちはし ももり
一瀬 萌里

本日は、このような式典を開催いただき、誠にありがとうございます。新型コロナウイルスの影響により登校や実習が制限されることもありましたが、6年間、精一杯学業に励むことができました。臨床実習では緊張感に身が引き締まる思いでしたが、学んだ知識をより深めるとともに患者さんとの信頼関係の築き方など、貴重な経験をしました。コロナ禍でも自分たちにできることを精一杯考え、やり遂げることができました。その中で支え合ってきた学友は生涯大切なかけがえのない存在です。4月からは研修医として新たな一歩を踏み出します。これからも初心を忘れずに、患者さんに寄り添い、この聖マリアンナ医科大学で学んだ愛ある医療を実践できるよう日々研鑽を重ねてまいります。

看護専門学校



第 44 回 看護専門学校卒業式 集合写真

受賞者からひとこと

理事長賞

野瀬 成美



小さな疑問や曖昧な知識はその都度調べ、理解して身に付けるよう心掛けました。看護に関する知識や技術はもちろんですが、実習を通じて患者さんから直接学ばせていただいたことはとても貴重な経験となりました。今後、助産師の資格をとるため進学しますが、患者さんに対する感謝の気持ちを忘れず、患者さんに寄り添い、不安な気持ちを安心に変えてあげられるような看護師を目指します。

同窓会賞

江成 杏菜



時間が無いと諦めるのではなく、少しでも時間を確保できるよう、常に効率の良さを意識して勉強時間を確保してきました。母性実習では、母子分離状態となり不安を抱えている褥婦さんにどう関わるべきか、文献を調べながら実践したことが大きな学びとなりました。患者さんの気持ちに寄り添った看護を提供していきたいです。

皆勤賞

山内 はるな



もともと体は丈夫なのですが、忙しい時期に意識的に早く就寝したり、時間が無くても朝食をきちんと摂ることを心掛けたりと、体調管理には留意しました。授業では精神看護学実習が印象的で、患者さんと向き合うことの意義を学ぶことができました。今後は患者さんやその家族はもちろん、一緒に働く同僚にも親しまれる看護師になりたいです。

皆勤賞

佐藤 香心



辛いときもありましたが、素敵な仲間たちに巡り合えたので、3年間を何とか乗り切ることができました。学んだ知識や技術を実践するのはもちろんですが、患者さんと真剣に向き合い、その方の将来がより良いものになるよう一緒に考えられるような看護師になりたいです。

皆勤賞

深見 真衣



体調管理や周囲のサポートのお陰で3年間を乗り切ることができました。講義で学んだことを、臨床の現場で医師や看護師の方々から直接ご指導いただいたのが実践的で良かったです。今後は患者さんに心身ともに寄り添い、退院後の安心な暮らしにも関わってあげられるような看護師になりたいです。

皆勤賞

武藤 優香



コロナ禍ということで体調管理が難しかったのですが、3年間の学生生活を無事に過ごすことができ、とても嬉しいです。辛いときもありましたが、目を逸らさず一つひとつ丁寧にこなすことができました。助けてくれた友達たちにも感謝しています。今後は患者さん一人ひとりの心に寄り添ってあげられる看護師になりたいです。

皆勤賞

山崎 菜月



勉学に集中できるよう、体調管理を十分に行ったことが皆勤に繋がったと思います。3年生のときの領域別実習は期間が長く辛いときもありましたが、友人と励まし合いながら何とか乗り切ることができました。今後は、業務が忙しくても患者さんの前ではそのことを態度に出さず、常に安心を与えられるような看護師になりたいです。

一選考基準

- ◆ 理事長賞
資性温厚で、成績優秀な者
- ◆ 同窓会賞
学生間の人望が厚く、学業に秀れ、卒業後も同窓会の発展に努めることが期待される者
- ◆ 皆勤賞
在学中に皆勤した者

卒業生の挨拶



卒業生代表 園山 愛莉咲

冬の寒さも和らぎ、優しい春の光が差し込む季節となりました。本日は私たち卒業生のために、このような式を挙げていただき、誠にありがとうございます。またご来賓の皆様、教職員の皆様、ご臨席を賜り卒業生一同心よりお礼申し上げます。卒業を迎えた今、この3年間を振り返ると、とてもあっという間であったように感じます。コロナ禍で入学式ができないまま迎えた初めての登校日は、期待と不安でいっぱいだった

たことを今でも覚えています。学校生活は課題や試験、実習に追われる毎日でもとても貴重な日々でした。また、コロナ禍で制限のある学生生活は、不安や戸惑いがあり、先の見えない日々焦りを覚えました。学年を重ねるごとに、専門的な勉強や臨地実習も増え、3年生の半年間の臨地実習の経験では、患者さんに寄り添うとはどういうことなのか、自分の看護観とは何かと悩み、看護実践の難しさを痛感しました。そのような状況でも、私たちのことを一心に考えてくださり、導いてくれた先生方や、臨床の指導者方のご指導により、無事実習を行うことができました。また慣れない看護技術の提供や、未熟な私たちを受け入れてくださった患者さんがいたからこそ、今

の学びがあると思い、心から感謝いたします。これらの経験が、私たちの看護の礎となっていることを今、胸を張って伝えることができます。この3年間の道のりは決して平坦ではありませんでした。時には心が折れそうになることもありました。そのようなときにいつでもそばにいて相談に乗ってくれ、一緒に悩んでくれた友人の存在がとても力になりました。国家試験や卒業試験の時期では、プレッシャーの中みんなで支えあい、励ましあいながら、乗り越えることができました。苦しい時もありましたが、それ以上にみんなで笑いあい、楽しく過ごせた日々は大切な思い出です。今この卒業式を迎えられているのは、3年間みんなで支えあって来たからだ

と思います。この3年間で学んだことを、4月からも忘れず、いつでも患者さんに寄り添える看護師になりたいと思います。本日をもって本学を去ることに名残惜しさは尽きませんが、多くの方のおかげでこの日を迎えられましたことに感謝申し上げます。ご指導いただいた先生方、学生生活を様々な形で支援して下さった皆様、多くの時間を共有してきた友人、ずっと見守ってくれた家族、これまで支えて下さった全ての方に、心よりお礼を申し上げます。最後に今後の聖マリアンナ医科大学看護専門学校の益々の発展と、この場にいる皆様のご健康をお祈りいたしまして、卒業生代表挨拶とさせていただきます。

令和4年度 大学院医学研究科 学位記授与式

前 大学院入試委員長 鈴木 真奈絵

令和5年3月22日に、本学大学院の学位記授与式が執り行われました。今回も新型コロナウイルス感染症流行の影響により、新医学博士及び指導教授・准教授のみの参加という形式となりましたが、明石勝也理事長、三宅良彦副理事長、北川博昭学長、加藤智啓医学部長、遊道和雄研究科長、池森大学院教学委員長をはじめ、参加者全員がアカデミックガウンを

身に纏う厳かな式典となりました。式典では、北川学長より新医学博士一人ひとりに学位記が手渡され、祝辞が述べられました。この際、令和4年度学位授与者の中から、優秀な論文を発表した亀島はる香氏〔内科学(循環器内科)〕、田北無門氏〔救急医学〕、佐藤未祐奈氏〔麻酔学〕の3名に優秀学位論文賞が授与されました。

われ、学位記授与式は厳粛な雰囲気のもと終了しました。式典後には参加者による集合写真を撮影し、新医学博士及び本学の医学研究の発展を祈念し全員が想いを共有する時間となりました。

大学院には、次世代の医学教育、研究並びに医療を担う有能な医療人・医学専門家を養成し、医療と学術研究の発展向上を通じて社会の充実に貢献することが求められています。来年度も多くの方が、大学院に進学されることを期待しております。

また、出雲昌樹准教授〔内科学(循環器内科)〕、吉田徹教授〔救急医学〕に優秀指導賞が授与されました。これらの受賞論文を含め、学位論文の多くが国際的な学術専門誌に掲載されるようになってきており、今後も益々優れた学位論文が発表されることが期待されます。

明石理事長、遊道研究科長からも祝辞が述べられ、優秀学位論文賞を受賞した亀島はる香氏が答辞を述べた後、小田神父による祈願が執り行



優秀指導賞を受賞した吉田徹教授(左)、出雲昌樹准教授(右)



優秀学位論文賞を受賞した佐藤未祐奈氏(左)、田北無門氏(中央)、亀島はる香氏(右)



大学院医学研究科長 遊道和雄 大学院教授



研究者紹介 ③

臨床研究の私のこだわり ～患者さんの笑顔を目指して～

脳神経内科学 主任教授 山野 嘉久



私は学生時代、CPC (Clinical-pathological Conference: 臨床病理検討会) でHAM (HTLV-1 関連脊髄症) の症例を経験したことをきっかけに、神経内科医の道を選んだ。入局した鹿児島大学第三内科は、当時南九州で多発していた痙性対麻痺が、HTLV-1 というウイルスが原因で発症するHAMという疾患であることを発見して間もない時期で、全国からHAMの患者さんが集まり、その診療や研究を精力的に行っていたのも入局した理由であったが、何より、初代教授である故・井形明弘先生が提唱された“井形イズム”と呼ばれる医局員心得の中の「患者の病を治すことが医の原点である」という思想と、それを実践しようとする医局の雰囲気に惹かれたのも大きかった。

医師について研究のイロハを教わった。当時の教授であった納光弘先生は私の青臭い熱意に真剣に耳を傾け、大学院での研究やその後のアメリカ国立衛生研究所留学などを大きく後押ししてくださり、神経免疫学を中心とした基礎研究に携わり、研究の素晴らしさ、大変さ、世界のレベルの高さを体験できたことは貴重な経験であり、現在の私の礎となった。私が聖マリアンナに国内留学を希望した際も、納先生自ら当時のリウマチ膠原病内科教授であられた尾崎承一先生のもとに足を運ばれ頭を下げてくださり、私は本当に良き師に巡り合えたことに深く感謝している。

若いころの私は、患者さんのためという志はあったものの、科学的な興味や探求心に駆り立てられ研究に没頭していた。2006年に本学に赴任したのを機にHAM患者会の方々より依頼され、関東初のHAM専門外来をスタートして間もない頃であった。とある患者さんが「私は病気になって20年近くになるがこのように車いすの状態になった。HAM専門外来に通って先生は何をしてくれるのですか?」と私に問いかけた。怒り

や不満をぶつける言葉ではなかったが、私にとっては痛烈に心に響く言葉であった。日夜、HAMの克服のために努力しているが、その成果は何ひとつ患者さんには届いていない。自己満足ではなかったか。臨床研究は患者さんを取り巻く環境を変えるものでなくてはならず、それを実現するためにはもっと戦略的に取り組まなくてはならないと改めて考えるようになった。

HAMのような希少難病は、症例が少ないために臨床情報が圧倒的に乏しく、それが治療法開発の大きな障壁になっている。そこで患者レジストリ“HAMねっと”を構築し、全国の患者や神経内科専門医に呼びかけ、HAM患者の登録、検体収集を全国レベルで実施した。本レジストリでは検体収集だけでなく、専任看護師による詳細な聞き取り調査も実施し、臨床症状、治療歴、家族歴、さらに日常生活の問題点などの調査を毎年継続している。その蓄積されたデータの解析により、HAMの自然史や疾患分類などが明らかになった。また収集した検体を用いたマルチオミクス解析などから新薬のシーズを

選定した。さらに治験の主要評価項目の候補となる指標データのエビデンスが蓄積され、治験のリクルートもしやすくなり、治験を計画・遂行しやすい基盤が整いつつある。また、2019年には初のHAM診療ガイドラインを発刊し、全国どこでも質の高い診療が受けられることを目指している。最近、このようなレジストリを他の難病でも導入しやすくなるよう、その基盤となる“AMEDの難病プラットフォーム”の構築に参画し、数千あると言われる希少難病のレジストリの構築を支援し、希少難病の解決へ向けた大きな一歩を踏み出している。このような基盤を作った上で、多方面の研究者とのネットワークを構築し、希少難病の問題を解決したいという思いを抱いている。私が行っていることは微々たるものであるが、自分の研究で一人でも多くの患者さんが笑顔になることができれば幸せだと思うし、また教育者としての職を得た今、志を持って医学研究に取り組む若者を育てていきたいと切に思う。

定年のごあいさつ

ご支援に感謝を込めて

医学教育文化部門 (医学教育研究) 主任教授

伊野 美幸



私はマリアンナ育ちと言っても過言ではない程に、教職員の方々、学生さん、患者さんに育てていただいた医師、教員です。

1982 年に本学卒業後、神経精神科学講座に入局し、尹美淑医長と山口登教授から、分け隔てない人への敬意と医師の責務を、また、松井宏晃教授から頂いた「上から受けた恩は下に返せ」の信条は人生の行動規範となりました。

現職への転機は長谷川和夫教授の「医師もある程度の年齢になったら社会的な仕事もなささい」という一言から始まりました。当時は WHO 型の FD (教員能力開発) が導入されたものの温度差は大きく、有志の医師が各地で奮闘していました。幸いにも、本学の明石勝也理事長は医学教育に造詣が深く、齋藤宣彦教授がすでに広く活動されており、私も末席に加えていただき、臨床の傍ら週末は FD を全国の有志と支援し続け、2008 年に現職を賜りました。

就任後は、部門長成田早苗教授のご理解のもと、卒前教育では当分野

兼任の先生方のご協力を得、カリキュラム改革や国際基準による自己点検評価、神経精神科学講座のご支援を得ての学生相談室運営、卒後では本院研修センター運営や厚労の臨床研修制度改革に携わり、また、中田幸之介理事、三宅良彦学長をはじめ法人のご支援のもと、陣田泰子参与と有志の教職員と共に人材育成、多職種連携推進を目的に、総合教育センターを設立、FD/SD、多職種が利用可能なシミュレーションラボの開設、e-learning の導入、女性医師キャリア支援を始めました。現在はシリーズ化したダイバーシティの啓発を継続し、去年より SDGs 部会を発足、「多様性を認める組織は健全で強い」を合言葉に次世代に繋げます。

仕事の全ては皆様からのご支援、ご尽力があってこそと身に染みて感謝に絶えません。本学の教員であると、当分野含めサポート下さる周囲の方々に恵まれたが私の最大の幸運でした。本学の益々のご発展と皆様のご健勝を心より祈念致します。誠に有難うございました。

令和 4 年度 定年退職者一覧

区分	所属	役職名	氏名	
医学部	医学教育文化部門 (医学教育研究)	主任教授	伊野 美幸	
	内科学 (循環器内科)	教授	原 正壽	
	外科学 (小児外科)	教授	川瀬 弘一	
	病理学 (分子病理)	教授	小泉 宏隆	
	麻酔学	教授	関 一平	
	病理学 (診断病理)	教授	相田 芳夫	
	微生物学	講師	三好 洋	
	免疫学・病害動物学	准教授	清水 潤	
	内科学 (脳神経内科)	助教	佐々木 直	
	内科学 (リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	講師	永淵 裕子	
	脳神経外科学	助教	干川 芳弘	
	総務部	執行役員	赤坂 兼啓	
	内部監査室	室長	中尾 智彦	
	解剖学	主幹	黒田 等	
	内科学	主幹	浜本 泉	
	内科学	主査	森 章子	
	教学部学長室	主査	松永 久美	
	大学病院	画像センター	主幹	米田 充
		画像センター	課長補佐	根本 良洋
		健康診断センター	課長補佐	久保 雅彦
メディカルサポートセンター		主幹	滝口 美重	
看護部		副部長	田村 順子	
画像センター		副師長	中嶋 正恵	
メディカルサポートセンター (看護相談)		副部長	大川 順子	
看護部		副部長	渡部まゆみ	
外来		師長	東平 佐和	
東横病院		看護部	部長	近藤 昭子
	臨床検査室	係長	吉野さゆり	
西部病院	看護部	副部長	三田由美子	
	クリニカルエンジニア部	技術課長	三橋 祥二	
	薬剤部	課長補佐	百合野祐子	
多摩病院	看護部	副部長	中村津由美	
	6 西病棟 外来		花部 久子 福岡 理恵	

令和 5 年度 入試結果報告

医学部

学校推薦型選抜 16 名、一般選抜 99 名が入学へ

令和 5 年度医学部の入学者選抜は下記のとおり実施いたしました。

学校推薦型選抜は、令和 4 年 11 月 12 日 (土) に学科試験 (自然科学総合問題および英語)・小論文・面接を本学キャンパス内で実施しました。なお、今年度より指定校制を廃止し、神奈川県地域枠および一般公募制での選抜となりました。合格者は 12 月 1 日 (木) 午前 10 時に発表しました。

一般選抜は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症への対応として、一般選抜 (前期) と一般選抜 (後期) を設け、第 1 次試験は令和 5 年 1 月 24 日 (火) (前期) と 3 月 2 日 (木) (後期) に「五反田 TOC ビル」を利用して実施しました。アルコール消毒の設置、通勤ラッシュを避けるため試験時間を 1 時間遅らせるなどの感染対策を行い、両日程の 1 次試験を大きな問題もなく無事終えることができました。

一般選抜 (前期) 第 1 次試験合格者は 1 月 31 日 (火) 午前 10 時に発

表し、本学キャンパス内で 2 月 4 日 (土)・5 日 (日) の 2 日間にて第 2 次試験を実施しました。合格者および補欠者は 2 月 10 日 (金) 午前 10 時に発表しました。

また、一般選抜 (後期) の第 1 次試験合格者は 3 月 8 日 (水) 午前 10 時に発表し、第 2 次試験は 3 月 10 日 (金) に本学キャンパス内にて実施しました。合格者および補欠者は 3 月 17 日 (金) 午前 10 時に発表しました。

令和 5 年 4 月には学校推薦型選抜 (16 名) および一般選抜合格者 (99 名) の 115 名が桜舞う季節に本学の門をたたき良医への道を歩むことになりました。

今後も優秀な受験生確保のために広報活動や、学外も含めた進学相談会等をさらに充実させ、本学の魅力のアピールに積極的に取り組んでいくとともに、受験生が安心して試験に臨めるよう入学者選抜の実施に注力してまいります。

教学部 入試課 青木葉月

看護専門学校

一般入試に II 期を増設し、特別選抜と推薦を別日程で実施

令和 5 年度看護専門学校入学試験は新型コロナウイルスの感染状況を確認しながら試験回数を 2 回から 4 回に増やし実施しました。少子化の影響から入学志願者が減少傾向であることを鑑み、これまで推薦入学試験と同日に実施していた大学卒業者および社会人経験者をターゲットとした特別選抜入学試験を推薦入学試験とは別日程で実施しました。また 2022 年度新入生は定員割れであったことを受け、一般入学試験 I 期に加え一般入学試験 II 期を実施することにしました。

特別選抜入学試験は 9 月 17 日 (土) に実施し、学士、社会人合わせて 9 名合格し、7 名が入学しました。続いて 10 月 29 日 (土) 推薦入学試験を実施しました。指定校および一般公募で志願者を募り、47 名合格し、全員入学しました。推薦入学試験の志願者は例年とほぼ同様であり、推薦入学試験により安定的に志願者を募ることができると考え、高等学校の偏差値とこれまでの本校への入学者の実績を踏まえ、次年度以降の指定校の追加も検討事項とすることにしました。一般入学試験 I 期

は 1 月 7 日 (土) に実施しました。志願者が年々減少しており、今年度の受験者は昨年をわずかに上回り 78 名でした。65 名の合格者と 3 名の補欠者を出しましたが、辞退者が多く、入学したのは合格者 29 名と補欠者 2 名でした。

広報活動として推薦入学試験前にオープンキャンパスを 7 回、その後一般入学試験前に 1 回実施しました。形式は人数制限をしつつも対面とオンライン併用のハイブリット形式で実施しました。11 月にはホームページを刷新し、12 月には YuoTube も配信しました。

2023 年度は 88 名が入学することになり定員を満たすことができました。しかし本校の使命である質の高い教育を実践し、高い能力を有する卒業生を出すためには基礎となる能力の備わった入学生を確保することが必要です。そのためには志願者の増加が必須となります。多くの方に本校の魅力を理解してもらう必要があります。そのことを念頭に置き次年度も取り組んでいきたいと考えます。

事務長 金本兼治

令和5年度 第53回 医学部医学科 入学式

新入生 115 名医師への道がスタート



4月8日(土)、医学部本館6階大講堂において、令和5年度第53回医学部入学式が執り行われた。今年度は学生1名に対して保護者2名までと限定し、また昨年同様Live配信も行った。まず、入学許可が行われた。医師となる夢と希望を抱いた115名の名前が一人ずつ呼ばれると、新入生は大きな返事とともに起立。北川博昭学長から新入生代表の齋藤伊万里さんに入学許可書が授与された。式辞の中で北川学長は「本学の建学の精神では、キリスト教的人類愛に根ざした生命の尊厳を基調とする医師としての使命感を自覚し、人類社会に奉仕し得る人間を育成することを

謳っています。単に医学的知識と技術を学ぶのではなく、さらに倫理的義務を体得する場となる教育を受け、つねに医師の崇高な使命感を身につけ、今年1月にオープンした新入院棟で目標とする医師像を見つけ出し、本日115名の新入生諸君が活躍される日を願います」と述べた。

祝辞では明石勝也理事長が「現在の医学教育は6年間のカリキュラムのほとんどをプロフェッショナル教育が占めています。しかし、諸君にとって、自らの人格や教養を豊かにするリベラルアーツ教育も重要です。ウクライナとロシアとの紛争、イラク、トルコの震災など、心憂う国際



北川博昭学長

情勢にも無関心ではなりません。様々な人との出会いを通して、ルカの福音書にある『善きサマリア人』の一節にある『隣人とは誰か』という問いに諸君自身で答えを見出せるよう、この6年間エネルギーを注いでください」と新入生を激励した。

岸忠宏聖医会会長は「勉学に励むと共にぜひクラブ活動に参加してください。現代の医療は医師を中心とするチームで行われます。クラブ活動をとおして人間関係を築くことはチーム医療を行う上で必ず役に立つと思います。」と語った。

次に、新入生を代表して富永琉斗



新入生代表として宣誓する富永琉斗さん

さんが入学した喜びを述べるとともに、学則を守り学業に精励することを宣誓した。続いて在校生を代表し第4学年の今井大貴さんが歓迎の辞を贈った。そして、小田武彦司祭(宗教学特任教授)の祈願、校歌演奏が行われ閉式となり、115名の新入生は実りある6年間に向けての第一歩を踏み出した。

□■入学生喜びの声■□

医学的、人間的力を備えた医師を目指して

医学部 富永 琉斗



まずはコロナ禍で危惧も多い中、入学式を執り行って頂き、大学関係者の皆様にご礼申し上げます。

本年から入学式は保護者の参列が再開しました。また授業は全授業対面になるなど、聖マリアンナ医科大学の活気は戻ろうとしています。私たち新入生も本学の学生となったことを自覚し、これからの大学を盛り上げて参ります。日々新しい知識を吸収して技術の習得に励むことはもちろん、キリスト教的人類愛のもとで道徳心や豊かな教養を学び、医学的力量だけでなく、人間的力量をも兼ね備えた医師を目指し、6年間充実した学生生活を送りたいと考えています。

令和5年度 第47回 看護専門学校 入学式

強い信念と覚悟で看護の志を



鈴木昌子 校長

4月6日(木)、医学部本館6階大講堂にて、令和5年度看護専門学校入学式が執り行われた。校歌演奏に続いて、新入生88名一人ひとりの名前が呼ばれ、鈴木昌子校長が

入学を許可した。

式辞では、鈴木校長が「この3年あまりは今まで経験したことのない未曾有のパンデミックの中に身を置きつつも私たちは常に自分らしくあることを大切にしながら1日1日を過ごしてきました。医療の現場は語

ることが難しいほどの大きな影響がありました。そのようななか、皆さんは看護師の道を志し、本校への入学を決めました。そこに強い信念と覚悟をみることができ。これから3,000時間に及ぶ講義・演習・臨地実習を着実に積み上げ、3年後、未来につながる道を歩み続けられることを期待しています」と激励した。

続いて祝辞で、明石勝也理事長は「皆さんの実習の場となる大学病院は昨年末に新入院棟が完成し、最新設備の整った先進の大学病院に生まれ変わりましたので実習の開始をぜひ楽しみにしてください。看護という素晴らしい分野を目指されたことを誇りに、心を尽くして研鑽を積み重ねるように願っております」と述べた。

次に、新入生を代表して関希実さんが「看護学生としての自覚と責任をもち、まわりの方々への感謝を忘れず着実に夢を現実にしていくことを誓います」と述べた。そして、小田武彦司祭による新入生への祝福の祈りをもって、式は滞りなく幕を閉じた。



明石勝也 理事長



「誓いのことば」新入生代表の関希実さん

□■入学生喜びの声■□

学べる環境へ感謝して

看護専門学校 関 希実



咲き誇る花々たちが門出を見守ってくれる、そんな季節、私たち88名は、聖マリアンナ医科大学看護専門学校の入学式

を迎えました。本日は私たちのために、このような素晴らしい入学式を催していただき、誠にありがとうございます。

コロナ禍の経験を通して様々な気付きや学びを得た私たちは、人に寄り添い、社会に貢献できる看護師になりたいという思いがより一層、強くなっています。その思いをこれからの学習に活かし、日々の学習を積み重ねることで基礎をしっかりと身につけ、患者さまの立場に立った看護を追求していくことを誓います。

令和3年度 聖マリアンナ医科大学教員表彰

教員表彰選考委員会 委員長 池森 敦子

本学では、医学教育の実践に顕著な成果を上げた教員の功績を称え、併せて全教員の教育意欲と能力向上を目指し、令和2年度より教員表彰制度を新設いたしました。

2年目となる令和3年度は、講義部門で第1～4・6学年に配当され

た講義担当教員から各学年5名、実習部門で第1～4学年に配当された基礎系実習の担当講座から各学年1講座(分野)と、第5・6学年に配当された臨床系実習の指導教員8名が、医学部学生の投票により選出されました。令和5年1月18日(水)、大学

病院別館8階臨床講堂での主任教授会終了後に各部門の上位者を対象に表彰式が執り行われ、北川学長による表彰状授与について各受賞者からは喜びの声とともに今後に向けた力強い抱負が語られました。

同表彰は引き続き実施して参りますので、教員の皆様には学生教育の更なる充実に向け、引



き続きご尽力くださるようお願い申し上げます。

各部門受賞者・講座(受賞者は1・2位、講座は1位のみ掲載)

【講義部門】

第1学年 第1位 水嶋 崇一郎(解剖学)	第2位 有戸 光美(生化学)
第2学年 第1位 水嶋 崇一郎(解剖学)	第1位 有戸 光美(生化学)
第3学年 第1位 古田 繁行(小児外科)	第1位 徳田 直人(眼科)
第4学年 第1位 黄 世捷(循環器内科)	第2位 本橋 隆子(予防医学)
第6学年 第1位 本橋 隆子(予防医学)	第2位 黄 世捷(循環器内科)

【基礎系実習部門】(いずれも第1位)

第1学年 解剖学(人体構造)	第2学年 解剖学(人体構造)
第3学年 解剖学(機能組織)	第4学年 法医学

【臨床系実習部門】

第1位 黄 世捷(循環器内科)	第2位 家 研也(総合診療内科)
-----------------	------------------

カリキュラム紹介

研究室配属の研究成果報告会を終えて

前カリキュラム委員長 鈴木 直

令和4年度の研究室配属部会(第4学年)は、例年通り年明けの臨床実習開始直前のCBT終了後の11月の4週間に設けられた。学生が希望する研究室において、実際に基礎研究または臨床研究に参画することで、学生がリサーチマインドを涵養することを目的とした本カリキュラムは、導入後4回目を数えた。本年度も事前に発表希望の学生を募った結果、14の研究テーマに対して、カリキュラム委員会委員と研究室配属部会委員による研究成果の動画に対する評価が行われた(委員に関連のある研究に対しては評価対象外とした)。そして、12月23日のスチューデントドクター宣誓式終了後の成果発表会において、優秀賞が授与された3名の学生から、分かりやすいスライドを用いた明快かつ丁寧な口頭発表が行われた;以下に優秀賞3つの研究内容を記す(成果報告会における発表順)。

○富永怜子「人工卵巣開発に向けて」: 妊孕性温存療法の一つである卵巣組織凍結保存は、白血病患者が適応となる場合が多い。しかしながら、白血病は卵巣内に腫瘍細胞が存在することから、凍結保存した卵巣を移植する際に微小な腫瘍細胞の体内への再移入が懸念される。そこで研究者は、より安全な妊孕性温存療法の確立を目的とした人工卵巣開発を目指し、人工卵巣のデバイスとしてコラーゲンが優れていたという、素晴らしい研究成果となった。



○秋山穂乃香、児山修、松尾優里「Uncovering the Unknown of Immune System in Alzheimer's Disease」: 研究者は、アルツハイマー病モデル動物を用いて、脳内の免疫細胞の機能をHE染色、免疫組織化学染色そして免疫蛍光染色によって解析した。さらに、アルツハイマー病モデルマウス脳内のリアルタイムPCR並びに脳内in vivo imagingによる免疫細胞の観察を行った。その研究成果は、アルツハイマー病の新規治療法開発の基盤構築に繋がる素晴らしい研究



成果となった。



○新村朱音「低月齢のCOVID-19 患児における尿路感染症に関する検討」: 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)と診断された低月齢患児(生後3か月未満)において、その他の熱源を鑑別するべきか?、という臨床的課題がある。そこで研究者は、低月齢発熱の原因になりうる尿路感染症に着目して調査を行った。その結果、低月齢患児においては、尿路感染症のリスクとなる基礎疾患を有さない場合であっても、尿路感染症を合併している可能性があることが示されたことから、全例で尿検査を実施すべきとする提言を示した素晴らしい研究成果となった。



さらに、以下に記す3つの研究テーマに対して、奨励賞が授与された。

○角田彩華「分娩誘発を要する無痛分娩で経膈分娩の完遂に関わる産科的因子の検討」

○堀井秀樹「新型コロナウイルス感染後Brain fogに対するrTMSの効果と脳血流低下部位との関連性」

○三木美来「卵巣組織移植手術手技が生着移植片に与える影響」

現行のカリキュラムでは、この時期の僅か4週間の期間しか研究室配属を設けることができないことから、低学年の時期から興味のある研究室に所属できる仕組み等を構築していきたいと考えている。最後に、研究室配属に多大なるご指導ならびにご協力を賜りました講座・分野のスタッフの皆様、教育課の皆様へ紙面をお借りして御礼を申し上げます。

スチューデントドクター宣誓式

去る2022年12月23日(金)午後3時から、病院別館8階臨床講堂において、新たに臨床実習に臨む医学部第4学年学生のスチューデントドクター宣誓式が挙行された。

本宣誓式は、第4学年共用試験に合格することで、一定水準の医学知識、診療技能及び態度を有することが認められた学生に対し、臨床実習開始前に医療に携わる責任感、医師としての使命感を再認識させることを目的に実施している。なお、学生にはスチューデントドクターとしての自覚を新たにするために、聖医会より白衣、大学よりケーシーをそれぞれ贈呈している。

式に先立ち、北川学長から「大学



と医師国家試験予備校との違いは国家試験の問題を解くだけでなく、クリニカルクラクシップで指導した医師の背中を君たちが見て、自分の将来像を頭の中に描き、その夢に向かって進むことが出来ることだと思います」と式辞が述べられた。続いて、学生代表の金 峰世さんから、「一人の人間として、患者さんと真摯に向き合い、臨床実習に臨みます」と4年生全員で考え、作成した宣誓文が読み上げられた。また、祝辞では、加藤智啓医学部長、鈴木直カリキュラム委員長より、それぞれ臨床実習での心構えと、激励の言葉が贈られ、参列者一同が4年生の新たな門出を祝福した。

教育学部 教育課 主任 藤原悠哉



教職員向け「資産形成基礎講座 ～人生100年時代 知っておきたいお金の話～」開催

2月17日(金)医学部本館6階大講堂にて、2月24日(金)多摩病院にて、教職員向けに、「資産形成基礎講座～人生100年時代 知っておきたいお金の話」を開催致しました。

みずほ証券株式会社コーポレートコミュニケーション部投資教育推進室長東京学芸大学客員教授の浜崎祐一郎先生を講師に迎え、

「テーマ1」:なぜ蓄える?～これからの時代を考える～

「テーマ2」:蓄えるための心構え

「テーマ3」:蓄える方法

の3部構成で、ご説明いただきました。

2日間で約150名の教職員が参加しました。一部の既実践している教職員からは、「もう少し具体的な話を聞きたかった」との声もありましたが、大半の教職員からは、「内容が充実していた」「わかりやすかった」「大変勉強になった」「資産形成を考えるきっかけになった」「もっと詳しく聞いてみたい」「応用編も開催してほしい」など好評で、活発な質疑応答も行われ、盛況に終了しました。

総合教育センター 主幹 三輪敬蔵



2022年度 医学会 海外留学奨学金の授与

聖マリアンナ医科大学医学会では、海外での医学研究のため留学を予定する本会会員を対象に、奨学金の給付事業を2015年より継続して行ってまいりました。2020年においては、同制度を見直し、基金の総額上限を120万円、また個人への給付額上限を30万円に引き上げ、2022年度は2名(新規1名、継続1名)の応募がありました。担当委員会での選考、並び

に採用の判定を経て、同年度3月に北川博昭会長より、耳鼻咽喉科学 稲垣太郎助教および耳鼻咽喉科学 望月文博助教に対して奨学金を授与いたしました。2年後の帰国時には、本会雑誌への投稿、または学術集会での講演を通じて、留学成果を広く発表していただく予定です。

医学情報センター 図書情報課 齋藤 薫

2022年度 医学会海外留学奨学金 採択者

講座名(職位)	氏名(フリガナ)	国名(所在地)/留学先	留学期間
耳鼻咽喉科学(助教)	稲垣 太郎	アメリカ / David Geffen Med School UCLA	2022年9月～2024年9月
耳鼻咽喉科学(助教)	望月 文博	アメリカ / University of Miami	2022年6月～2024年5月

血液・腫瘍内科学 講座

教室・施設紹介 27

すべての血液疾患の治癒を目指して

血液・腫瘍内科学 主任教授 新井 文子

血液・腫瘍内科学では白血病、リンパ腫などの「血液がん」から、感染症、免疫異常に伴う血液異常まで、幅広い「血液疾患」を扱っています。若い人から重症者まで、患者の年齢も合併症も様々です。院内すべての科のご協力をいただきながら、チーム医療で治療にあたっています。重症患者が多いのですが、治療が奏効すると劇的に状態が改善します。大きなやりがいを感じる瞬間です。

2023年1月の新病棟オープンに伴い、病棟は最上階11階東に計18床からなる無菌ユニットを開設しました。これにより高度な免疫抑制を伴う血液疾患患者に対し、より安全かつ有効な治療が行えるようになりました。さらにユニット内は病室以外のフリースペースも広くとり、治療、処置はもちろん、リハビリテーションにも活用しています。窓からの景色も最高です。

空気が澄んでいると北は筑波山や奥日光の男体山、西は武甲山、多摩の山々そして丹沢の向こうに富士山も見えます。東は横浜みなとみらいのランドマークタワー、東京スカイツリーを望むこともできます。日本一の絶景をもつ無菌ユニットと自負しています。血液疾患の入院期間はどうしても長期になります。素晴らしい展望をご覧ください、少しでも快適に過ごしていただきたいと思っています。

さて、今年度の血液・腫瘍内科学は臨床面で2つの大きな目標を掲げています。難治性血液疾患を対象とした「ウイルス血液病センター」の開設と、日本骨髄バンク移植認定施設の認定を大学病院で取得することです。すべての血液疾患の治癒を目指し、頑張ってください。これからも、血液・腫瘍内科学をどうぞよろしくお願いいたします。



「マリアンナアプリ」公開

2023年4月17日から、聖マリアンナ医科大学病院で、初の病院公式アプリとなる、「マリアンナアプリ」を一般患者さんへの公開を開始しました。初日から100人に迫る勢いの患者さんやご家族が登録窓口に足を運んでくださり、アプリやその機能に対する興味・関心の高さが表れる結果になりました。一般患者さんの利用開始を受けて、これまでトライアルとして登録していた教職員の数と合わせて、4月末に、登録者が1,000人を超えました。

マリアンナアプリは、待合状況の確認や駐車場の混雑状況確認などの外来利用を便利にする機能の他に、パーソナルヘルスレコード(以下、PHR)機能として、大学病院で受けた検査結果や医療画像の閲覧、通院予定の確認などをスマートフォン上から行うことができます。また、マイナンバーカードとの連携により、大学病院以外の医療機関での通院履歴や処方内容、医療費などの確認もできるようになるなど、自身の医療情報をまとめて自己管理することができるアプリとなっています。

この度の一般公開にあたり、大坪毅人病院長からも「マリアンナアプリを当院の患者さんに使って頂き、医療情報を共有して、患者さんや家族と我々医療者達が共に『ひとつのチーム』として病気に立ち向かっていくことで、よりよい医療を提供していきたいと切に願っております。便利機能もお役に立つと思いますので、ぜひアプリを活用していただければと思います。」とのコメントが



りました。医療者と患者さん、そして家族がチームとして治療にあたるという、新しい医療のカタチの実現、そして医療の質向上に向けた第一歩を踏み出したことが表明されています。

デジタルヘルス共創センター 主事 西頭倫歩

◆ 令和4年度 国家試験結果報告 ◆

医学部

114名の医師が誕生

前 国試委員会委員長 松本直樹

2023年2月4日(土)、5日(日)に行われた第117回医師国家試験は3月16日に結果発表され、本学卒業生は114名(新卒104名、既卒10名)が合格しました。合格率は89.1%、今年度も既卒学生諸君の合格率90.9%の頑張りも顕著でした。

本年度卒業生は新カリキュラム移行の2年目の学年でしたが、初年度が厳重な新型コロナウイルス感染症対策下にあったことから、実質的に初めて移行後の臨床実習下で国試準備を行った学年と言え、多くの事が手探りであったと思います。苦労を経験した学年と言えますが、各自は非常に頑張っていたことは詳細な分析からは明らかになっており、学習成果が上がっていたことは確認できております。近年の本学の国家試験合格率は非常に安定していたものの、大学としての不得意分野が存在する問題点を内包してはいたしましたが、新カリキュラム移行前後からは、どの分野も平均的な成績を収められるよう

になりました。特に今年度は全国平均と比較して明確な弱点がなくなっております。これはコロナ禍による制限も残っていたものの実質的な実施時間数が激増した臨床実習とその中で苦労して励んだ国家試験対策の学習の賜物といえ、実地にて医業を担当する際には大きな力となる事は明らかです。学生諸君、そして教育をご担当いただいた先生方には感謝申し上げます。今回の国家試験で残念な結果に終わった諸君も素晴らしい環境での学修の成果が必ず得られる事は先輩が証明してくれています。頑張ってください。

2023年度も同様に、長い臨床実習期間に並行しての国家試験対策に第6学年学生諸君は頑張っております。第6学年担当教員の皆様には引き続きご指導いただきますようお願いいたします。また、本学、および関係する全ての皆様にも厳しくも温かい御指導を今後も変わらず賜りますようお願い申し上げます。

看護専門学校

第112回看護師国家試験を振り返って

教務係長 田代佐知子

2023年2月12日(日)に第112回看護師国家試験が行われ、3月24日(金)に合格発表がありました。全国で64,051名が受験し、合格者は58,152名、合格率は90.8%でした。当校からは44回生85名が受験し、84名が合格し、合格率98.8%と全国平均より高い結果を維持することができました。

44回生は卒業までの3年間で100単位(3,030時間)のカリキュラムを修め、カリキュラム以外にも国家試験対策として、1年次からの模擬試験導入、医学部講師・学内教員による補習講義などに取り組んできましたが、そこに至るまでの道のりは決して楽なものではありませんでした。44回生が入学したのはCOVID-19が流行し始めた2020年4月でした。その後も感染拡大を繰り返す中、学校生活でさまざまな制限を強いられました。それでもオンライン授業の併用、臨地実習も学内や時間短縮での実施など、できる限りの工夫をしながら学習を継続してきました。44回生にとってこのような3年間は本当に不安が多かったと思いますが、最後まで諦めることなく学習を続け、

見事に合格を勝ち取りました。看護師国家試験は80%以上の正答率が合格の必須条件となっている必修問題、出題基準に基づいて知識を問う一般問題、臨床の現場で起こり得る状況設定に対する理解力・判断力を問う状況設定問題で構成されています。近年の出題傾向として、思考問題やより臨床判断能力を問う問題が増えてきています。このような問題は単純な知識の暗記だけでは正答することは難しく、より実践的で幅広い知識とEBN、思考力が求められます。これらの力を身につけるには、机上の学習のみならず、臨地実習での経験をいかに知識として定着させるかが重要であると考えます。withコロナとなり、今年度から学校生活、臨地実習での制限がかなり緩和されました。学内での学習及び、臨地実習での学びを国家試験に繋げていけるようますますの支援をしていきたいと思っております。そして一人でも多くの卒業生が国家試験に合格し、その自己実現を叶えると同時に社会に貢献できるよう支援していきたいと思っております。

◆連載◆

卒業生を訪ねて -2-

本学を卒業され、現在は学外で活躍されている方を特集する「卒業生を訪ねて」。2 回目にご登場いただくのは、下山 (旧姓:松原) 京子氏 (看護専門学校卒業) です。

看護専門学校 OG

看護専門学校卒業生の下山京子氏は、卒業後本学附属病院に勤務し、現在は帝京平成大学ヒューマンケア学部看護学科の教授として活躍されています。



ー看護師を志望されたきっかけを教えてください。

下山氏 NHK のドラマがきっかけなんです。看護師が活躍するストーリーだったんですが、それを見ているうちに看護師になりたいという気持ちが湧いてきたんです。職業としては、獣医や教師も選択肢にあったんですが、人と接することが好きでしたし、人の苦しみを安心に変えてあげられる職業に魅力を感じて選びました。

ーマリアンナを選択された理由は？

下山氏 私、数学が苦手だったんですよ。なので、受験科目に数学の無い学校を調べていたら、ちょうどマリ

アンナがあったんです。出身が山口県なので、遠くの学校へ進学することに対する不安は多少ありましたが、調べるほどになかなか良い学校だなと感じ、進学を決意しました。

ーどのような学生時代でしたか？

下山氏 当時は看護学校内に学生寮があって、そこで暮らしながら学んだのですが、寂しいという気持ちはなく、とにかく楽しい学生生活を過ごしました。病院が隣接していて常に看護という職業を身近に感じながら勉強できたので、環境は最高でした。学生という立場にありながら、教授回診にも立ち合わせていただき、早くから看護師としての自覚が芽生えました。

ー印象に残っている先生は？

下山氏 中田幸之介先生 (名誉教授) が強く印象に残っています。看護学校卒業後、私は小児外科に配属となったので、教授だった先生には看護師になってからもお世話になったのですが、とにかく教育に熱心な先生でした。裏表がまったく無く、怒るときもすべてがストレート。確かに、怒られると怖いのですが、普段は根の優しい先生だったので、学生たちからはとても信頼されていました。個人的にも、看護師として迷ったり悩んだりしたときには親身に話を聞いてもらい、アドバイスをいただくなど、大

変お世話になりました。もう一人、山本善次郎先生 (神父) も印象に残っています。私自身はキリスト教とは無縁の人生を過ごしてきましたが、先生の優しさに触れるたびに、こんな温かい心を持った看護師になりたいなあと思ったものです。

ー卒業後は小児外科病棟からキャリアがスタートしたんですね？

下山氏 はい。小児外科病棟から始まり、今日まで小児医療を中心にキャリアを重ねてきました。マリアンナで臨床経験を積んでいた 1993 年、結婚を機に看護師を辞めて群馬に移住しました。その後、子育てに少し余裕が出てきたタイミングで近隣の短大で実習指導を手伝うようになったんです。その実習は成人医療が対象だったのですが、やはり私自身には小児医療を極めたいという思いが募り、学士を取り、群馬大学で学び直して修士を取得したんです。その後も教員としての経験を重ねながら、新潟大学で博士を取得しました。修士から開始している研究は、中田先生、北川博昭先生 (現学長) の御指導の下、今まで継続できています。お二人の先生方には、今も心から感謝をしています。

ー最近はどのような研究をされているのですか？

下山氏 マリアンナでも積極的に取り組まれています。私自身も最近では AYA 世代のがんを研究のテーマとしています。がんに罹患した本人はもちろん、不安を抱える家族と本人との関係、死別後に残された家族の支援など、がんを取り巻く家族支援を軸に研究しています。

ー現在は外部でご活躍されていますが、外部から見るマリアンナは、どのような印象ですか？

下山氏 とても先進的な組織だと感じ



6 東病棟 クリスマス会

ています。学会などで他学の発表を聞くと、「え！それってマリアンナでは昔からやってるけど」ってことが多いんです。前述の中田先生から、「医師も看護師も対等の立場なんだから、患者さんのためであれば遠慮せずに発言し、実行せよ！」って教えられていましたから、新しいことにどんどんチャレンジできたんですね。

ー学生時代の同級生とは今でも繋がっているんですか？

下山氏 高橋恵さん (ナースサポートセンター担当執行役員) をはじめ、当時の仲間とは今でも連絡を取り合っています。ここ数年は COVID-19 の拡大で集まれませんでしたが、そろそろ再会できるかなと楽しみにしています。もちろん、会えばマリアンナの話もたくさん出ます。当時私が指導していた看護師が今では師長で頑張っている話を聞くと、とても感慨深いですね。

ー最後に現役の職員に一言お願いします。

下山氏 マリアンナを応援する気持ちはずっと変わりません。COVID-19 特集でマリアンナが取り上げられているのを見て、とても嬉しく、また頼もしく感じました。やはり、マリアンナって凄い組織なんですよ。後輩ナースたちにはそのことをもっと自覚してほしいし、そのことをどんどん外部へ発信してほしいです。そして医療界全体をリードしてほしいですね。期待しています。

(総務部)



新人教育宿泊研修

◆連載◆

在学生紹介 -2- 学生インタビュー

看護専門学校 3 年生 (取材当時)

高校中退後に社会人を経験し、その後改めて高卒認定試験をパスして本学の看護専門学校に入学された野村昇吾君。看護師となろうとしたきっかけなどを伺いました。



ー高校卒業後、一度社会人を経験されたという伺いました。

野村君 いや、実は卒業していないんです。高校入学後、学生生活が退屈ですぐに退学しました。その後は建築関係の仕事などを中心に社会人として働きました。大変なことも多くありましたが、働くことの意義を学ぶことができ、僕の人生にとって貴重な経験でした。

ーその後、どのようなきっかけで学校に戻られたのですか？

野村君 社会人として生活する中で、今度は学ぶことの大切さを実感するようになりました。高校時代は全く興味がなかったんですが、学ぶことへの興味が湧いてきました。母親がマリアンナで看護師として働いていたこともあり、看護専門学校で学ぶことを選択しました。高卒の資格がなかったため、定時制高校に入学して高卒認定試験をパスし、3 年前に看護専門学校に入学しました。

ー現在 3 年生 (取材当時) ということで、

そろそろ卒業を迎えるわけですが、どのような学生生活でしたか？

野村君 とても充実した学生生活でした。(最初の) 高校時代は学ぶことの意義が分からずフラフラしてしまいましたが、マリアンナでは勉学に集中することができました。良い仲間にも恵まれ、感謝の気持ちで一杯です。

ー勉学以外に取り組まれていたことはありますか？

野村君 “マリアンナで” ということではないのですが、ずっと野球を続けてきました。今でも草野球のチームに所属して、練習や試合を行っています。

ーマリアンナにも野球チームがあります。多職種の職員が活動しているのですが、最近入部する教職員が少ないのが悩みのようです。

野村君 卒業後は大学病院に勤務する予定なので、ぜひ参加してみたいです。

ー最後に、どのような看護師になりたいか、お聞かせください。

野村君 患者さんに寄り添うことはもちろんですが、職場を明るくするような存在になりたいですね。

その後、野村君は無事に国試に合格し、この春より本学の大学病院に入職されました。若者としての滲刺さを持ちつつ、浮付いたところを感じさせない誠実な印象を与える好青年、野村君の今後の活躍を期待しています。(総務部)

健康ハートウィーク 2022 の開催報告

薬理学 准教授・サッカー部顧問・健康ハートウィーク 2022 実行委員長 木田 圭亮

8 月 10 日が 810 (ハート) と読めることから、1985 年に日本心臓財団がこの日を「健康ハートの日」とすることを提唱しました。以来、この日を中心に、心臓病・脳卒中の予防啓発キャンペーンが展開されてきました。昨年は、日本循環器学会、日本心臓財団、日本循環器協会の 3 団体で、「健康ハートウィーク 2022」として実施することになり、実行委員長をさせていただきました。7 月 28 日 (木) から 8 月 11 日 (木・祝) まで 2 週間にわたるキャンペーンとなり、COVID-19 の影響で、実施できなかった企画もありましたが、その多くはオンラインで開催できました。

7 月 30 日のサッカー J2 横浜 FC とのコラボ企画、心臓病で一度はサッカー選手の道を断念し克服した過去を持つ、「サウロ・ミネイロ選手と心臓病予防について学ぼう」では、佐藤如雄先生 (循環器内科)、藤田智也君、中村学斗君 (医学部サッカー部 現在 5 年生) と澤井まりあさん、クサノ汐里さん (同 5 年生)、小島萌さん、長谷部里乃さん (同 2 年生) にもお手伝いいただきました。ニッパツ三ツ沢球技場で「健康ハートの日 特設ブース」にて、展示やグッズ販売、

そしてサウロ・ミネイロ選手の動画公開、ハーフタイムにはグランド周内の練り歩きをして健康ハートの日啓発活動などを行いました。

また、8 月 11 日のすごいぜ心臓 小学生向け心臓教室、「聴診器を作ろう、予算 1500 円で作る手作り聴診器、心臓の音を聴く聴診器が百均グッズで作れるんです！」では、黄世捷先生 (循環器内科) が企画から当日の出演まで担当してくれました。

そして、今年は心臓病予防啓発の新たなキックオフをテーマに、健康ハートウィーク 2023 を開催することになりましたので、ぜひ web (<https://www.kenko810.com/>) をご覧ください。お楽しみに。



健康ハートの日 2022 × 横浜 FC

8月10日は健康ハートの日

令和4(2022)年度 厚生労働科学研究費補助金 交付決定者一覧

令和5年3月31日現在

Table with columns: 所属, 職位, 氏名, 代表・姓, 交付額(円)直接経費, 研究課題名. Rows include 免疫学・病害動物学, 内科学(脳神経内科), 外科学(小児外科), 産婦人科学, 産婦人科学, 医療情報実用化マネジメント学, 予防医学, 内科学(総合診療内科), 内科学(代謝・内分泌内科), 内科学(脳神経内科), 内科学(脳神経内科).

Table with columns: 所属, 職位, 氏名, 代表・姓, 交付額(円)直接経費, 研究課題名. Rows include 内科学(血液・腫瘍内科), 内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科), 神経精神科学, 小児科学, 脳神経外科学, 放射線医学, 救急医学, リハビリテーション医学, 難治性疾患病態制御学, 臨床検査医学.

令和4(2022)年度 文部科学省・(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業 交付決定者一覧

令和5年3月31日現在

Table with columns: 所属, 職位, 氏名, 交付額(円)直接経費, 研究課題名. Rows include 生理学, 予防医学, 内科学(消化器内科), 内科学(脳神経内科), 神経精神科学, 産婦人科学, 応用分子腫瘍学, バイオインフォマティクス学, 解剖学, 生理学, 生化学, 微生物学, 薬理学, 免疫学・病害動物学, 予防医学, スポーツ医学, 内科学(総合診療内科), 内科学(循環器内科), 内科学(消化器内科), 内科学(腎臓・高血圧内科), 内科学(代謝・内分泌内科), 内科学(脳神経内科).

Table with columns: 所属, 職位, 氏名, 交付額(円)直接経費, 研究課題名. Rows include 内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科), 小児科学, 外科学(心臓血管外科), 外科学(呼吸器外科), 外科学(小児外科), 脳神経外科学, 整形外科, 形成外科学, 皮膚科学, 腎泌尿器外科, 産婦人科学, 眼科学, 耳鼻咽喉科学, 救急医学, リハビリテーション医学, 難治性疾患病態制御学, 難病治療研究センター.

令和 4 (2022) 年度 文部科学省・(独) 日本学術振興会 科学研究費助成事業 交付決定者一覧

令和 5 年 3 月 31 日現在

Table with 6 columns: 研究種別, 所属, 職位, 氏名, 交付額 (円) 直接経費, 研究課題名. Includes categories like 難病治療研究センター, 大学院アイトープ研究施設, 内科学 (総合診療内科), etc.

令和 4 (2022) 年度 国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究開発費 交付決定者一覧

令和 5 年 3 月 31 日現在

Table with 6 columns: 所属, 職位, 氏名, 代表/分担, 交付額 (円) 直接経費, 研究課題名. Includes categories like 免疫学・病態動物学, 内科学 (脳神経内科), 内科学 (血液・腫瘍内科), etc.

※所属・職位・氏名は、調査当時となっております。

令和 3 (2021) 年度 公的・民間助成金 (競争的獲得資金) 獲得状況一覧

Table with 6 columns: 所属, 職位, 氏名, 助成機関名, 助成事業名, 研究課題名, 金額 (単位: 円). Includes categories like 解剖学 (機能組織), 生理学 (物理学), 微生物学, etc.

附属病院 施設だより

❖ 東横病院 ❖

トイレラウンドの実施

サービス向上委員会には、患者さん、職員より意見が届きます(患者さんは院内に設置のご意見箱で受付、職員はご意見箱およびご意見メールで受付)。

継続的に届く意見にトイレの内容があります。

入院患者さんはベッドからトイレに行き戻ってくるという行為自体が療養生活の大事な時間です。外来患者さんは、待ち時間から診察、検査、会計までの間にほとんどの方がトイレを使用します。清掃の方より、男性患者さんからサンタリーボックスの有無を問われたことがある、男性トイレに汚物がそのまま置いて

あったなどの意見も届きました。職員も勤務時間内にトイレに行かない方はいないと思います。

「3K(くさい、きたない、くらい)+使いづらい」を解消するためには、清潔感があり使いやすい環境にする必要があります。また、転倒防止策、感染リスク制御、快適性(清潔感)にも配慮する必要がありますが、まずはトイレラウンドにて実態を把握し、その上で大きな費用をかけずにできることに取り組みました。

オストメイトトイレがあることを職員が知らないことも分かりました。小さな取り組みですが、地道に活動を継続して啓発することが大事だと思います。そして1人でも多くの職員に関わって頂く工夫も大事だと思いました。

総務課 主幹 阿部征子



《取り組みの内容(一部)》

- ◇手洗いの水の温度が冷たい → 「数秒間冷たい水が出ます」の掲示
- ◇女子トイレのサンタリーボックスが小さい → 大きなタイプに変更
- ◇男性トイレにサンタリーボックスの設置
 - 誰でもトイレ(車いす・オストメイトトイレ)にサンタリーボックスを設置
- ◇水洗ボタンの位置が分かりにくい → 分かりやすく掲示
- ◇杖を置く場所が無い → 杖ストッパーの設置
- ◇車いす用トイレの扉に「使用中」の札が無い
 - 「使用中、空室」のプレートを設置

❖ 西部病院 ❖

卒後臨床研修評価機構(JCEP)認定

2022年12月15日(木)に2回目となる卒後臨床研修評価機構(JCEP)の訪問審査を受審しました。卒後臨床研修評価機構とは臨床研修病院における研修プログラムの評価や人材育成、研修医が働きやすい環境にあるかなど全86項目の評価を書面ならびにサーベイヤーによる訪問審査によって行われます。評価項目の中には、研修施設としての充実度や臨床研修指導医への評価はもちろんのこと、研修医の衣食住の環境が整っているかなども評価の対象となります。当日は、病院長、副院長をはじめ臨床研修センター関係者、看護部、コメディカルの方々を含めた全職員で対応しました。サーベイヤー3名(医師2名、事務1名)によって、書

類確認から始まり、面接調査、関係部署訪問、症例発表、研修医インタビューなどが行われ、1日を通して西部病院が医師だけでなく看護師、コメディカルも含めた病院全体で研修医を育てている環境であることをアピールできたと思います。サーベイヤーからも「豊富な臨床実績とともに充実した臨床研修の場を提供して研修医の育成に大きく貢献していると共に、研修医の満足度の高さからも臨床研修に対する真摯な姿勢は高く評価される」との講評をいただきました。1月1日付にて4年間の更新認定を受けることができました。引き続きより良い臨床研修病院となるよう取り組んでまいります。

臨床研修センター センター長 小林俊也



Colors, Future いるいるって、未来。 川崎市

COLORS FUTURE! ACTIONS KAWASAKI 100th

聖マリアンナ医科大学 Green For All KAWASAKI 2024

学校法人 聖マリアンナ医科大学は、川崎市市制100周年記念事業と全国都市緑化かわさきフェアを応援しています。

❖ 多摩病院 ❖

川崎北部医療機関で感染症の危機備え訓練実施

去る2023年1月14日(土)に多摩病院の講堂を利用し、川崎市北部地域の医療機関や保健所などの行政が一堂に会した感染対策合同訓練が実施されました。

同訓練は、長島病院長が代表を務める「KAWASAKI地域感染制御協議会」が主催する訓練として実施され、昨春から準備を進め、8月のプレ訓練を経ての開催となりました。

適切な医療の提供や行政との連携を確認し、課題を抽出する机上訓練で、市内での新興・再興感染症が集団発生したことを想定した内容で訓練が行われました。

当日は、多摩病院と聖マリアンナ医科大学病院、新百合ヶ丘総合病院、麻生総合病院の医療従事者に加え、



多摩区と麻生区および宮前区の保健所、川崎市健康安全研究所職員ら計約40人が参集した他に、川崎市医師会会員の開業医など52名もオンラインで参加しました。

訓練は40分間で、各医療機関が架空のクリニックまたは総合病院の役割を担当し、何らかの感染症状を呈する患者が受診したことを想定し、各施設や行政との連携を確認しながら対応が検討され、参加者は診断や検査の要点、保健所に伝えるべき事項など各対応について課題が共有されました。

このような訓練は、国内でもまれで、これまで防災や災害訓練などで、行政を交えた訓練は実施されておりましたが、感染症を主とする訓練は行われていませんでした。

新型コロナウイルス感染症が国内で初めて確認されてから3年以上が経過し、5月8日には5類への引き下げが行われることが決定しています。今後、新たに発生する感染症に備え、同訓練が継続していくことに期待しております。

事務部 参与 桑折正美

❖ プレスト&イメージング先端医療センター附属クリニック ❖

つつじ

当プレスト&イメージングセンターは、小田急線新百合ヶ丘駅から徒歩約5分、川崎市立アートセンターのお隣のビルにあります。写真は、当院の職員ラウンジからアートセンターの屋上を撮ったものです。

毎年GWごろになると、このようにつつじが見事に咲き誇ります。

当院の開院の数カ月後、このつつじを初めて見たときの驚きと感動が忘れられません。まさかビルの屋上に、こんなにキレイな花が咲いているなんて!と皆でこぞって写真を撮りました。

ただ、この満開のつつじを見ることができるのは、我々のビルと、通りを挟んだお向かいのビルの上層階からのみなのです。それ以外からは決して見ることができず、ひっそりと咲いています。

毎年このキレイなつつじを見るたびに、特等席で見ることができていることを感謝しつつも、多くの方に見ていただけない残念さも感じます。人知れず咲いているからこそその美しさ

かもしれません。たまに管理の方を見かけると、陰ながらありがとうと言っています。

写真でも見られるように、ところどころに欠けている部分があります。これは、数年前の夏の渇水のときに、枯れてしまったものです。当時、どんどん枯れていくつつじを見るのも、忍びないものでした。枝が黒っぽくなっていく様子は、つつじが苦しんでいるように感じました。

今年もまた、この花が美しく咲く季節がめぐってきます。ささやかな、でも贅沢な「秘密の花園」を楽しみたいと思っています。

秘書 大多和まや



聖マリアンナ医大新聞編集委員会 委員名簿

(2023年4月1日現在)

- 委員長 藤谷博人 [スポーツ医学 主任教授]
- 委員 船橋利也 [生理学 主任教授] / 竹村 弘 [微生物学 主任教授] / 大平善之 [総合診療内科学 主任教授] / 丸井祐二 [腎泌尿器外科学 教授] / 安藤久美子 [神経精神科学 准教授] / 鈴木昌子 [看護専門学校 校長] / 中村孝史 [総務部 部長] / 鈴木安鶴子 [大学院・研究推進課 課長] / 阿部征子 [東横病院総務課 主幹] / 前田光一郎 [西部病院事務部 部長] / 桑折正美 [多摩病院事務部 参与] / 清水朋子 [栄養部 部長] / 中澤真希子 [看護部 師長] / 奥島英明 [総務部 参事] / 平高菜海子 [総務部 総務課]

※聖マリアンナ医大新聞は、年3回以上各10,000部を発行し各部署、附属病院、附属施設、名誉教授、聖医会、保護者会、教育関連病院、官公庁他に配布しております。

